

学生、教職員のみなさんへ、  
主に「ワクチン」について、

2021. 6. 21 学長 谷岡郁子

ようやく緊急事態宣言が解けて、今日から対面授業が主体になりました。  
梅雨の晴れ間の明るい陽射しに学生たちの様々なTシャツが映えます。至学館の学生  
たちがもっとも生き生きする季節の到来です。

今日、廊下や教室、学庭で見た限りでは大きな問題には見えませんでした。やはり  
登学する学生が増えると密な場面も出てきます。鼻マスクにならないよう気をつけて  
ください。

何人かの学生から、ワクチンに関する問い合わせがありました。

大学で接種ができるようになるのか？という問いです。

現在、できるように検討していて準備中です。今週から始めている大学は主に文科省  
直轄の国立大学、あるいは東京で強い政治力をもつ私立大学でかなり以前から文科省と  
やり取りをして準備してきたようです。至学館を含め意向の調査があったのは今月に  
入ってからであり、まだ不明な点が多いです。わが大学も一応手を挙げた大学のひとつ  
です。地元の大府市とも協力できないか検討中ですが、住民票のない学生の扱いやワクチン  
の確保など不明な点がいくつかあります。

PCR検査もそうでしたが、決定から計画、そして準備には多くの人々の労力と時間が  
必要になります。配慮しなければならないこともたくさんあります。私たちは、できるだけ  
早く、これらの問題、課題をクリアーして教職員、学生のみなさんにワクチン接種の機会を  
確保すべく努力しますので待っていてください。もちろん、現在住んでいる自治体での  
接種が早い場合はそちらを優先してください。

同時に、このワクチンが強制ではないことも確認しましょう。確かに家庭内に病気の人や高  
齢者がいる場合はそのほうが安心でしょうし、部活動などで感染の可能性が高い人は打っ  
ておいたほうがいいかもしれない。一方でワクチンの副反応は年齢の若い人のほうが起こ  
りやすいように、これまでの情報から判断できます。若い人たちは、コロナに感染しても  
重症化する可能性が小さいことを考えれば、絶対ワクチンが必要ということでもないと思  
われます。家族と相談し、よく考えて自己決定してください。ワクチン接種後でも、大学の  
PCR検査は続けますので、これからも陽性、陰性の確認は可能です。

長い間の自粛生活。やっと明るさが見えてきました。ただし、ワクチンによって果たして  
集団免疫が確立するのか、またワクチンの効果がどのくらい続くのか、今のところ、不明  
なことは多々あります。特効薬が開発されるまでは完全に元の生活に戻せないかもしれな

い。そして、どちらにせよ、デルタ・ウィルスが現在強い感染力で我が国に入ってきているというのも事実です。注意を続けましょう。

至学館の仲間たちは、羽目を外すことなく、賢く幸せな生活ができると信じています。何か、必要ができたら、これまでのように相談してください。

学生諸君、君たちの元気な姿が見えることがとても嬉しいのです。それが続くよう協力してください。